

---

# エースの2人

優宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

エースの2人

### 【Nコード】

N9200V

### 【作者名】

優宮

### 【あらすじ】

エースの2人はカップルで仲のいいのが売りの2人の恋。

淡くもろい恋は、線香花火に似ていて実りはほんの一握り。

「雄哉！」

「何？」

私と雄哉は付き合ってたえっと、何ヶ月だっけ？告ってok貰ったのは3月で、今が8月（宿題終わってない（笑））5ヶ月ですね！はい！

「ってかお前、エースなのにサボってていいのかよ。」

私、<sup>まっなが</sup>松永 <sup>ちさ</sup>千沙は陸上部、2年生エースです！

「いいのーっ雄哉といたいし！」

「サンキュ…！」

雄哉は1ヶ月前に遊びでやっていたサッカーで複雑骨折をした。同じ陸上部のエースのコンビで仲がいいのが売りだったからシヨックだった。

「おまえさあ、慰めの言葉とか言わないよな。」

「だってさ、皆が言ったのに私が言っても意味ないしそれに…」

「

「それに？」

「私、一人でエースは十分だし！」

「言ってくれたな？こら！」

笑っていても絶対に起こらないし。弱音ははかない。強い。でも、見てしまったんだ。

「ちくしょう！何で俺が！何で俺がこんな目にあわなくちゃいけないんだよ！」

そう一人で言っていたのを覚えている。

「バカ雄哉！」

「…千沙？」

「そんなことを陰で言わないでよ！裕也の分まで頑張るとか絶対言わないし、だから、ハイジャンと一緒にいこうよ。」

それが私の慰めの言葉だから。

精一杯の慰めで。

あのあと、雄哉は4ヶ月のブランクから戻って来た。

そして、また夏が来た。

「雄哉と千沙！オメデトー」

見ると、2つのトロフィーがあった。

一つは千沙の記録。

一つは裕也の記録。

2人の栄光を称えるように…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9200v/>

---

エースの2人

2011年10月8日23時33分発行